開倫塾ニュース 2 月号御送付の御案内

大不況期の過ごし方を考える

－現状をしっかり見すえた上で、自分自身の手で未来を切り開こう－

開倫塾
塾長　林　明夫

Q：日本を含め世界中で大不況のようですね。

A：(林明夫：以下省略)その通りです。1929 年からの世界大恐慌のようにならないように、日本や世界のリーダーたちが立ち上がり、各国が力を合わせながら、各々国としてできる最大限の努力をしています。

Q：このような大不況の時期は、どのように過ごしたらよいとお考えですか。

A：まずは、現状をしっかり見すえることが大事と考えます。各国の歴史や世界史の教科書に必ず載るような出来事が、何週間か前から発生しています。新聞を毎日一面からしっかりと読んで、日本や世界で何が起きているのか、日本や世界のリーダーたちは、それにどう対応しようとしているのかを「理解」して下さい。「新聞を読んで自分の力で考える」ことが、今ほど大切な時期はありません。

Q：日本や世界の現状を「理解」した上で、何をしたらよいのでしょうか。

A：大不況という時代に合った生き方をする以外にありません。大不況という時代は、お金がどんどん出ていく割にはお金が入ってこない、つまり「金まわり」が極端に悪くなる時代です。そのような時代に、自分で自分の身を守るために一番よいのは、「もったいない」の生き方に徹することであると私は思います。ものを大切に大切にすること。お金は大切に使うこと。今やっていることを大切にする、まじめにしっかりと行うことが大切です。

Q：例えば、どのようなことですか。

A：(１)今、学校で学んでいる人は、この大不況の時期に「学校で学ぶことができること」を大切に考えて、今、学んでいることを学校にいる間にしっかりと身に付けることです。

「ノート」や「筆記用具」は最後まで使い切る。「教科書」や「参考書」はスミからスミまでしっかりと「理解」した上で「覚え切る」。教室など学校の施設や自宅の自分で使う部屋を整理整頓(せいりせんとん)し、いつまでも使えるようにする。

(２)食べ物は、自分で食べられるだけ食器に取り、ゆっくりとかみしめながら食べ、残さないようにする。

(３)病気がある場合は、どんどんお医者さんに診てもらい、全力を傾けてできるだけ早く治すようにする。病気とは真正面から闘う。できるだけ病気にならないように、最大限気をつける。

(外から帰ったら、薬用石けんで手のくるぶしまで 2 回洗い、うがいを何回もすることで、病気にならないようにする。食後の歯みがきは、おっくうがらないで毎食後確実に行う。歯科医院に定期的に行き、虫歯をつくらない。etc.)

Q：随分(ずいぶん)基本的なことですね。

A：この大不況は、これから何年間か、日本だけでなく世界中で続くと思われます。学校を卒業した人が仕事に就くことが難しい、今仕事に就いている人が仕事を失うことも多くなる時代に入っていく可能性が極めて高い時代に、日本だけでなく世界中が入っていくとも思われます。

ですから、学校で学ぶ皆様も含めて、この世の中で生きている人は一人残らず、新聞を考えながら読むことで、今世の中で起こっている現実をしっかり冷静に認識した上で毎日の生活をしっかり見つめ、一歩一歩着実に、今やれることを確実にやり抜くことが求められると考えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：このような時こそ、「何のために自分は生きるのか」、「どのような生き方を自分はしたいのか」、「何のために上級学校に進学するのか」、「そのためには今何をしなければならないのか」などの一見難しいと思われることを、腰を落ち着けて深く考えることが大事かと思います。

人間の歴史の上で、今日ほど物があふれ、お金や情報が行き交う時代はありません。今でも、明日食べる物がなく生活に困っている人々は何十億人もいます。日本にもそのような方はたくさんいます。たとえ小学生、中学生、高校生であろうと、日本や世界の現実を自分なりに直視し、自分の生き方を自分の力で決め、自分の責任で生き抜く時代に入ったと私は考えます。

一番大切なのは、「高い志(こころざし)」です。自分に与えられた社会的使命(mission、ミッション)とは何かを自覚して、一生を生き貫くこと。「一所懸命」に「一つの所で命を懸けるくらい熱心に」、勉強に、仕事に、社会活動に、また、よい家庭をつくる・よい地域社会をつくるために、一人ひとりがその人なりに努力をする。このような生き方が求められるのが、既に迎えてしまった大不況の時代であると私は考えます。

皆様は、どのようにお考えになりますか。

御参考までに

(1)「読書の秋」です。このような時代にこそ、人々は困難な時代をどのように乗り切ったかを知るために、日本や世界の人々の「伝記」をじっくりと読むことをおすすめします。

一番のおすすめは、幕末から明治維新を生き抜いた福沢諭吉の「福翁自伝(ふくおうじでん)」です。シュリーマンの「古代への情熱」も、何のために生きるのかを考える上でとても参考になります。「伝記」を読んで興味がわいてきたら、その当時の歴史や地理などを調べてみると、よい勉強になります。

(2)この秋に皆様の前で起こっている世界恐慌発生寸前の大不況や、世界中がスクラムを組んでそうならないように取り組んでいることは、何十年後かに日本史や世界史の教科書に必ず載るような内容です。そのような日本や世界の歴史の上で重要な出来事のまっただ中に、今我々は暮らしていることを考え、新聞だけは毎日一面からじっくりなめるようにお読みになることを、また、大切と思われる記事は切り抜き、スクラップブックに貼り付けておくことをおすすめします。

― 2008 年 10 月 16 日記―

御参考①
次の文章は、開倫塾ニュース 1991 年 1 月号の巻頭言です。京都・一燈園の石川洋先生からお伺いしたお話を紹介させていただいておりますので、御参考までにご覧下さい。

開倫塾ニュース1991.1月号巻頭言

新年を迎えて

開倫塾
塾長　林　明夫

『新しい年になりましておめでとうございます。時代もいろいろ変貌いたしておりますけれども、大事なことは、やはり、一人ひとりの人間がいかに生きがいをもって生きるか、その基本を育てていくということだと思います。
特に、学生さんにとっては、自分の能力をいかに開発していくかという努力と、それを考える人生の基盤というようなものが大事なことではないかと思うのであります。

私は栃木県生まれでありまして、少し年をとりますと昔のことを思い出すのですが、小学校 1 年から 4 年の 2 学期ぐらいまではいなかで育ちました。学校から帰ってくると、おじいさんやおばあさんに、手伝いをせいということで、押し切り使って、藁を切って馬のエサをつくる仕事の手伝いをさせられたことを覚えています。小さい子には、押し切りで切るのは少々危険でもあり、そしてまた力の要る仕事でしたが、とてもなつかしい思いをしています。また時々、おばあさんに言われて、そば踏みをさせられたことを覚えています。昔は、いなかではそばを買うなどということはいたしませんでしたし、味噌も醤油も自分のところでつくりました。こねたそばをゴザにくるんで、上から小さい子が踏んで、20 分くらい踏まされたでしょうか、いやで途中で逃げたくなったこともありましたけれども、今、そのことがとっても大事なことのような気がするんですね。
今の言葉で言えばお手伝いということになるのでしょうが、何かお手伝いというよりも、もっと違った意味で生きていた世界であったような気がするのです。

小さな手と小さな足で、何ができていたのか、あるいは小さな手で、小さな足で、できていることが、能力を開発する基本だと思います。何ができるのかという可能性の追求よりも、今何をしているのかという体験を基盤とすることが大切ではないかという感じがしてならないのです。
潜在意識を、あるいは潜在能力を育てるという戦後の教育に対する一つの流れがございます。それも非常に大切な個性教育ということにあてはまることだと思いますが、何かそれよりももっと大切なことは、体験の意識を育てる、あるいは体験を基盤にして人間を育成することのほうが、長い人類の歴史から見れば大事な人間育成の基盤ではないかなという気がしてならないのです。
カウンセラーの先生方が、一つの問題を御親切に検討して、「こんなところがこの子の性格をゆがめているのではないか」、あるいは「こんなことがこの子を伸ばし切れない一つの小さなできごとではあるけれども、心のかげりになっているのではないか」ということをおっしゃることがあります。こ

れも、その子の引きずっている家庭環境というもの、あるいは、それなりの人生経験というものもあるわけで、大切なことであるわけですけれども、実際から言いますと、本当にどれが原因かなんていうことは、本人もわかっておりませんし、そして、それをお調べ下さる先生も本当のことなんてわからないと思うのです。ですから、そのときに問題になったことだけを誇大視して、針小棒大といいますか、そこから人間を解決しようとしていくのは、その人間の問題ではなくて、むしろ、そのカウンセラーの学問の対象としての人間ではないか、その辺に一つの限界があるような気がするのです。

もっと大事なことは、基本からやり直すということ、今何ができているのか、小さな手で小さな足で社会人として、家庭人として、あるいは一人の人間として確実に生きているその体験から何を学んでいるのか。小さいときにはわからないだろうけれども、実はそれが長い人生を支える一番大事な基盤づくりではないかなという感じがするのです。

時々、いろいろな問題をもって御相談に来られるお子さん連れのお母さんもおりますが、私はそういうときに、原因は聞かないことにしています。　朝何時に起きていますかと聞くと、学校に行かない子が 8 時ということがあります。学校に行けなくなったことは、子どもとしては一つの大きな問題でしょうが、人間としてどこからやり直すのか。7 時に起きて学校に行っていたのならば、6 時半に起きて、そこでお手伝いをして、学校に行かない期間だって立派に人間として生きる基盤をつくっていけば、私は、おのずからいろいろな問題を乗り超えて、仲間と参加をして、明るく学生生活あるいは青春というものを送り、人生を生きがいのある、確信のある生き方につくり変えていくことができるのではないかと思うのです。

年のはじめでありますので、そういう意味で「何をするか」ではなくて「何が今できているのか」あるいは「何をしているのか」といういつでも体験の上に立って学んでいくということが、人間教育として一番大事な基礎づくりではないかと思います。

栃木県の皆さん、私もいなかで育ちまして、押し切りを使って馬のエサをつくったり、そばを踏んだことが一番大事な自分の基礎になっているような気がいたします。足もとをしっかりしたい一年のはじまりでありたいと思います。』

*ラジオ栃木放送で 1 月 19 日（土）午後 3 時 30 分すぎから放送予定の「開倫塾の時間」での京都・山科・一燈園・石川洋先生のお話の速記録。(文責・林明夫)

「今何ができているか」あるいは「今何をしているのか」が最も大切であるという石川洋先生のお話には、感銘深いものがありました。原因をさぐり反省はしなければなりませんが、今までのことは、あまり言っても仕方のないことです。新年ですので、今年からどうしよう、今からどうしようと、ものごとを新たに考え直し、今までの自分にとらわれない生き方、自分の理想とする生き方により近い生き方をしていただきたいと思います。

ただ、学生としての生き方にはおのずから制約があります。「勉強をすること」「身体を鍛えること」「心をよりよくすること」は必ず行って下さい。受験生であるからには、一定レベル以上の基礎知識を身に付けて希望校に進学することは、当たり前のことです。そのためには、今まで教わってきたことを完全に理解しつくした上で、それを答案の上に、制限時間以内に表現しつくさねばなりません。

大学入試や高校入試を受けるだけの学力を身に付けることは、受験生のこれからの人生に多大な貢献をします。何しろ、読み書きができ、計算ができ、英語がわかり、自然科学、社会科学の基礎的な素養があることを意味するのですから、職業選択の幅が大きく広がるばかりでなく、様々な活動が自

らの責任で自由にできる基礎が提供されるからです。

どうか受験勉強を「被害者意識」で行うのではなく、今まで勉強してきたもののうち不確かであったものを確実にし、完全に理解してから上級の学校に進み、更に勉強を深めるために行うものと積極的にとらえて下さい。この勉強を機会に、自分なりの勉強の仕方(スタディ・スタイル)も少しずつつくっていって下さい。「素直な心」と、「長時間勉強をしても大丈夫なだけの体力」と、「明確な目的意識」さえあれば、必ず道は開けます。

開倫塾の先生方は、皆さんが勉強のうえで成果が上がるよう全力をあげて応援いたしますので、最後までがんばってついてきて下さい。

何十年かたって、高校入試や大学入試のときにはよく勉強したな、あの勉強が自分の基礎をつくったと振り返られるくらい、是非がんばっていただきたく思います。

御参考②
次の文章は、開倫塾ニュース 1989 年 1 月号の巻頭言です。全塾生の皆様の入試における希望校合格を心から願い、入試直前の過ごし方を示させていただきました。御参考になさりながら、自分自身を磨き自分自身の未来を切り開くための受験勉強に一所懸命励んでいただきたいと思います。

開倫塾ニュース1989.1月号巻頭言

積極的な受験生活を送ろう

－受験までの過ごし方－

開倫塾
塾長　林　明夫

県立高校入試まで、あと 1 か月足らずとなりました。そこで、入試直前の 1 か月をどのように過ごしたらよいかを今日は考えてみようと思います。

学校での生活

言うまでもなく、中学 3 年生の 3 学期は 9 年間の義務教育の最後の学期です。義務教育終了間際（まぎわ）の 1、2 か月ですので、卒業式をはじめ卒業に際してのいろいろな行事があります。仲良くなった同級生や後輩、お世話になった先生方と学校で過ごすのも、もうわずかです。そこで、少なくとも学校にいる間は、中学 3 年生としてしなければならないことは手を抜かずにできるだけ積極的にすべきと思います。また、卒業後もいろいろな人間関係が生まれますが、やはり学校時代の友達・恩師との再会は格別なものです。ですから、この際積極的にみんなと仲良くなるよう努力するのも、これからの人生を充実させる上で非常に有益です。「今まであまり話をしたことのなかった同級生、後輩、先生方、学校の職員の方々と毎日少しでもよいから話をして、卒業までにできるだけたくさんの仲良しをつくること」を、是非卒業までの目標にして下さい。「一度仲違（なかたが）いをした人とも、もう一度仲良くなるように努力すること」も大事かと思います。

してもらいたくないことは、「受験の上での悩みや、グチ、心配」をえんえんと学校内で話題にすることです。「受験勉強」はすればよいだけで、試験での点数が上昇すれば合格することはわかり切っています。どうやればよいかも、ラジオの「開倫塾の時間」で毎回放送していますし、塾や学校の先生も適切なアドバイスをしてくれると思いますので、アンテナさえはっていれば十分わかります。「不安だ、不安だ」と友だち同士で言い合っていると、話に加わっている人みんなが動揺し、集中力を欠き、それがもとで成績が下がることすらあります。「悩んでばかりいても成績は上がらない。悩む暇があったら勉強しよう」と、是非言ってあげて下さい。

塾での生活

開倫塾は昭和 59 年に創設された学習塾ですから、今年で 5 年目になります。5 年間ひたすら、どのようにしたら高校入試で全塾生が合格できるかを考えてきました。本年は 500 名もの中 3 生が開

倫塾で学んでいますので、全員に希望高校に合格してもらいたいと、80 名の教職員全員が一丸となって努力しています。教職員のチームワークが非常によい塾、塾の教職員になりたい人が年間 400 ～ 500 名余り訪れる塾として、学習塾の関係者には知られています。県立高校の合格率も、毎年 95 %と好調です。どこにも行けない子は出しておりません。

そこで是非お願いしたいことは、信頼して受験の前日まで開倫塾の指導の通り学習してほしいということです。年間を通して非常に綿密なカリキュラムが組まれています。中でも受験直前は、大量の問題練習による応用力・得点力確保のためのプログラムが用意されています。どうか安心してついてきて下さい。

よくわからないところが少しでもあったら、授業後先生にどんどん質問して下さい。遠慮は無用です。塾の先生は受験生が希望校に入学してくれることを最大の喜びとしますので、わからないところがあったらわかるまで必ずお教えします。全員の先生が受験の専門家・受験のプロですので、各科目についてどこが出題され、どのように勉強したらよいかを熟知しています。勉強方法でわからないことがあったら、これまた遠慮なしに、授業時間外に質問して下さい。要するに、受験勉強について少しでもわからないことがあったら、開倫塾の先生にどんどん尋ねてほしいということです。

入試前日には出陣式があります。「合格祈願勝ドン」を先生方と食べ、入試での心構え等の指導を受けます。最終日まで欠席することなく開倫塾に通い通して、合格を勝ち取って下さい。

家庭での生活

規則正しい生活が何よりです。毎日決まった時間に起き、決まった時間に床につく。ほぼ決まった時間に決まった場所で勉強し、決まった時間に風呂に入り、休み時間をとる。受験勉強で大事なのは、心と体の健康をくずさないことです。できるだけ規則正しい生活を心掛けて下さい。

ただし、いくら規則正しい生活が大事と言っても、午後 4 時半に帰宅し 6 時半まで TV を見、夜 10 時半から朝 7 時半まで眠る。勉強は塾に行く日だけ、というのではあまりにもおそまつすぎます。帰宅後、少し休んでから塾に行くまでの時間は不得意科目を毎日 2 時間は勉強する。塾のない日は TV にかじりつくことなく、塾で勉強していると思って塾での学習の予習や復習をする。塾がある日も帰宅後少し休んでから、1 ～ 2 時間は机に向かう。日曜日は 1 日中、力をつけたい科目を学習する。学校行事等で早く学校が終わる日は、友だちと遊ぶことなく早く帰宅し、机に向かう等々、様々な工夫をして勉強主体の家庭生活をして下さい。与えられた時間は 24 時間。学校での充実した義務教育最後の教育、開倫塾での入試傾向にピタッと合致した受験勉強、家庭での自己学習の三者がピタッとかみ合えば、最高の意義ある日々が送れると信じます。

受験勉強を支えてくれるお父さん、お母さんはじめ家族の方々に感謝の心を忘れずに。

日本の受験生は、自分の未来を切り開くために好きなだけ勉強できて幸せだと考えます。

試験さえ合格すれば自分の希望するどんな高校にも進学できる、各種奨学金制度もかなり整備されている日本の受験生は幸せです。世界中に、上級学校で勉強したくてもその機会が与えられず、希望がかなわない若者が何億人もいるからです。学校の他に塾やいろいろな習いごとにまで行ける日本の子どもは、世界中で最もきめ細かな水準の高い教育を受けていると、いろいろな国を視察した結果思います。徴兵制度がないため学卒者が直ちに企業内研修を受けられること、国民の基礎学力が世界一高いこと、全国民が一所懸命よりよいものを求めて自らの仕事を全うしようという勤勉さに支えられて、日本の今日の繁栄があるものと信じます。

高校入試には、世の中に出て役に立たないものは一切出題されません。すべて社会人として必要不可欠なものばかりです。あやふやであった知識を受験勉強を通して確かにしていくことは、人生を充実させる上で有益です。受験勉強は被害者意識でするのではなく、自分自身を磨き自分自身の未来を切り開くために行うべきと考えます。

御参考③
次の文章は、開倫塾ニュース 1994 年 2 月号の巻頭言として、入試を 1 か月後に控えた受験生の皆様に向けて勉強方法や心構えについて書かせていただいたものです。お役に立てていただければ幸いです。

開倫塾ニュース1994.2月号巻頭言

入試直前の心構え

―ラストスパートをするにあたって心得ておくべきこと―

開倫塾
塾長　林　明夫

１．はじめに

入学試験まで 1 か月余りとなりました。そこで今回は、入試を 1 か月後に控えた受験生の勉強方法・心構えをいっしょに考えてみましょう。

２．日常の心構え

『合格する！合格する！』と自分自身くりかえして言う時に、すでに希望校に合格することを半ば以上、自分のものにしたのと同様である。

『悲しいこと』『腹のたつこと』『気がかりなこと』など消極的なことは寝床の中に一切もちこまない。明るく朗（ほが）らかに、生き生きとして勇ましい積極的なことを連想する。

鏡に映る自分の顔に、自分のなりたい状態を命令的な言葉で、例えば『お前は合格する！』『お前はもっと成績がよくなる！』と発声する。『つぶやき』くらいの声でよいから真剣に。1 回一事項で。(2 回も 3 回も繰返さない)。命令したことが現実化するまで、同一命令を続行すること(途中で他のものに変更しない)。一日中、折あるごとにやってもよいが、寝ぎわにやるのが効果的。

翌朝目ざめ直後の心がけ　前夜、命令したことを、すでに具体化された状況で、断定した言葉で表現する。例えば、前夜、「お前は合格ができるようになる」と命令したら、それを「私は、きょうは合格ができるまでに学力が身についた」と自分の耳に聞こえるように言う。

これは、目ざめた直後に、鏡を用いなくてもよいから、行うこと。一日中、回数多くやる方がより効果的。

①『困った』『弱った』『情けない』『悲しい』『腹が立つ』『助けてくれ』等、消極的な言葉は絶対に口にしない。
②不平不満を言わず、『正直・親切・愉快』を生活のモットーとする。
③『今日一日、怒らず、怖れず、悲しまず』の実行。
④心が積極的か、消極的か、常に客観的に検討し、少しでも消極的なものは追い出す。
⑤他からの暗示事項を常に分析し、積極的なものは取り入れ、消極的なものは拒否する。
⑥明るく朗らかに、生き生きとして勇ましい態度で何人にも接する。特に不健康・悲運の人に対しては、鼓舞・奨励以外の言葉は口にしない。

⑦『さしあたる、その事のみをただ思え、過去は及ばず、未来知られず』取越苦労は厳禁です。
⑧本心良心にもとった言動は絶対しない。』
＊『中村天風・成功手帳 1994 年版・日本経営出版局』より、大半は引用。

「今日一日
怒らず　怖れず　悲しまず
正直　親切　愉快に
力と　勇気と　信念とをもって
自己の人生に対する責務を果たし
恒（つね）に平和と愛とを失なわざる
立派な人間として生きることを
厳かに誓います」　　中　村　天　風

以上長い引用になりましたが、中村天風氏のことばに受験を重ね合わせたものを書いてみました。ものごとの大半は心構えで決まってしまうと思いますので、どうか、二度・三度読み直して下さい。受験を通して積極的な生き方を身に付けて下さい。

３．一日中勉強・受験前日まで朝起きてから寝るまで勉強

受験生なのに、あれもしたい、これもしたいというのでは、手が一本しか入らない取り口のあめ玉の容器に手を突っ込んで、手にいっぱいあめ玉を取り、出口のところで手をつかえさせて、手が出ないようと泣いている幼児と同じで、欲が深すぎます。やりたいこともいろいろあるでしょうが、この際受験一本にしぼり込んでものごとに向かうべきです。

ただ、そうは言っても、学校に行き授業中に「内職」をするようでは困ります。最後まで授業はキッチリ受け、わからないところは積極的に質問をし、頭の中を整理することも必要です。体育や音楽、技術家庭、美術等の時間にはこれまた積極的に身体を動かしたり、歌を歌ったり、作業をしたり、芸術に親しむことも、「教養」を高め、心を洗うことになりますので、是非積極的に取り組んで下さい。休み時間に友だちや先生と語らうことと同じように、受験勉強のよいリフレッシュにもなります。

また、家でしなければならない手伝いも、同じ家庭に生活する者としての責任を果たす意味からも、受験生だからといってしなくてよいことにはなりません。進んでどんどん行うべきであります。

食事や風呂、身づくろい、睡眠も人間としての生存を維持し、社会生活をする上で不可欠ですので、ある程度時間をとって行うべきであります。

要するに、人間として生活するのに欠いてはいけないことには、それ相応の時間を費すべきだと考えます。

私がここで言いたいのは、「それ以外の時間は、すべて受験勉強に使うべきだ」ということです。

卒業間際になると、学校での授業が変則的になり、自習時間が増えたり、早く帰宅できる日が増えます。そのようなときこそチャンスです。わき目もふらず、勉強することにすべて使うべきです。この時期になり、TV・ファミコン・長風呂・長電話・マンガ・口ゲンカ・悩むことに時間を使ってはあまりにももったいない。固い決意のもと、必要なこと以外には大事な時間を使わないことをくれぐれも心掛けて下さい。

＊必要なら睡眠時間も削ることです。7 時間以上眠らなくては頭が変になる人は例外として、受験生

であるなら 7 時間以上は眠らないことです。夕方眠り夜中に机に向かう人もいますが、まるっきりやらないよりはマシですが、夕方眠りすぎると一日中頭がボーッとしますのであまりすすめられません。夕方は 20 ～ 30 分の昼寝にとどめるべきです。

４．一点突破全面展開をはかること

各科目ごとに、これから入試までに自分なりにしなければならない作業を明確にして、それのみ集中的に行うべきです。社会の勉強をするにあたって、世界の歴史に全く手がついていなければ、世界の歴史のみ集中的にやればよいことは当然です。英単語が書けないために英語の得点が取れない人は、中学 1 年生の教科書を取り出して、まず第 1 課から書けなそうな単語を書けるまでにする練習をすること、これまた当然です。国語で古文がまるっきりわからなければ、教科書や参考書の古文を一から勉強し直せばよい。

今までまるっきり遊び通した人はいない。みんなある程度一通りは勉強し終えたのだけれども、最後のツメが終っていないだけなのです。まるっきり終っていないと本人は思っていても、1 年生のように全く知識がゼロの状態ではないのです。3 年生なら、1 年生や 2 年生の勉強は 2 ～ 3 日でいくらでも終わらせることができます。要するに、その分野は不得意であると自分であきらめているだけの場合が多く、ほぼ 9 割以上勉強し終えていて、その分野だけ残っているだけなのです。そうだとすれば、あとは時間を集中して、教材を決めてその分野を集中的にやるだけです。

ある程度できる分野は、過去の問題を短いスピードで解き、間違えたところを解き方と共に覚えるだけです。

「ラストスパート」、がんばって下さい。

入試に必要なのは「やる気」と「体力」だけなのですから、やった方が勝ちです。

御参考④

開倫塾ニュース 1994 年 12 月号の巻頭言では、一生使える英語を身に付ける第一歩として、「ただひたすら英語の教科書を大きな声で読むこと」を紹介させていただきました。グローバル化の進む社会の中で英語の重要性はますます増していますので、御参考までにご覧下さい。

開倫塾ニュース1994.12月号巻頭言

大きな声でただひたすら英語を読むこと

―一生使える英語を身に付けるための基礎知識―

開倫塾
塾長　林　明夫

１．はじめに

「なぜ日本の人はこんなにも英語を話すことが不得意なのか」と、先日、中国の上海に出掛けたときに何人かの人から言われた。これから、外国に出ることや、外国の人と単なる遊びだけではなく仕事をすることもますます増えると思われる。そのときに使われる言語は「英語」であると考えられるので、今回は、どうしたら一生使える英語がマスターできるかを考えたい。

もちろん、中国の人に接するときには「中国語」、ベトナムなら「ベトナム語」、ラオスなら「ラオス語」、モンゴルなら「モンゴル語」のほうが、それも、各国のその地方で使われている言葉のほうが意思の疎通が上手にいくに決まっている。その国の文化や社会を深く理解するには、その国の言葉を基礎からしっかり勉強すべきである。だから是非、小学生であろうと学びたい国の言語はしっかり勉強してほしい。しかし、何といってもどこの国に行っても、ある一定レベル以上の人に必ず通じる共通語は英語である。日本に来る人すべてが英語をマスターしている訳ではないが、日本人が外国に行く場合と比べかなり多くの人が英語を上手に話すことはよく知られてきた。どうしたら、英語を母国語としない外国の人で日本に来ている人と同じレベルで英語が使えるようになるかが今回のテーマなので、よく読んで、できることからどんどん実行に移していただきたい。この文章をお読みの保護者の皆様で英語を勉強したい方も、今からでも遅くありません。残りの 50 年の人生を充実して生きるためにも、この文章を参考に英語に取り組んでいただきたい。

２．ただひたすら読むこと－(只読)のススメ－

とにかく大きな声で、ゆっくりでもいいし速くてもいい、自分の好きなスピードで、ただひたすら英語のテキストを読むこと。時間を何分と決めないで、気が向いたら、何十分でも、何時間でも英語の本を大きな声を出して読むこと。これが一番よい。

できれば、意味のよくわかった学校や塾の教科書を読むとよい。一度習ってよくわかっているものであれば、これはどんな意味だろう、文法的にはどうかなどとめんどうなことを考える必要はないので、とにかく読んでいて楽しい。

中学 3 年生や高校生くらいの教科書になると難しいこともときどき書いてあるから大変かもしれないが、中学 2 年生くらいまでなら教科書は全部覚えてしまうとよい。一行ずつ何十回も暗誦する

こと。学校や塾で一つの課を勉強し終えたら、必ずその課の最初の行から大きな声で読みながらていねいに覚えていくことをおすすめする。一つの文を何回も見ながら読み、よく言えるようになったら、今度は見ないで 5 ～ 10 回言ってみる。見ないで完全に言えるようにまでしたら、また次の一文を教科書を見ながら読んでみる。よく読めるようになったら、見ないで言ってみる。見ないで言えるようになったら、最初の文と合わせて見ないで言ってみる。二つの文を見ないでスラスラ言えるようにする。二つの文が見ないで言えるようになったら、三つ目の文を大きな声で読んでみる。よく読めるようになったら、三つ目の文も見ないで大きな声で言ってみる。見ないでよく言えるようになったら、一つ目の文、二つ目の文と合わせて、三つ目の文まで見ないで一気にスラスラ言えるまでにする。

このような形で、絶えずその課の最初の文まで立ち返って、スラスラと口をついで 1 課分が出てくるようにするとよい。これは難しそうだが、やってみると意外とやさしい。また、楽しくできる。

最初の課が終わり、次の課に入るときには、最初の課を大きな声でただひたすら読んでから、新しい課に進むとよい。第 3 課に入るときは、第 1 課と第 2 課をただひたすら大きな声で読んでから、第 3 課の内容を最初の文からすべて覚え込むようにするとよい。このようにして、最後の課まで 1 年かけて勉強すると、あと 80 年間ほとんど忘れない。一生使える英語が身に付く。

高校 3 年生になっても、いつも中学 1 年生の教科書から大きな声を出して読んでおくことをおすすめする。高校 1 年生くらいの文が口をついでどんどん出てくれば、どんなに難しい大学にも合格する。

11 月 23 日の勤労感謝の日に、足利商工会議所青年部の主催で「両毛クラシックラリー」が開かれ百台以上のクラシックカーが両毛地区 120 ㎞を走ったが、車の持主は出掛ける前、途中、終わった後と自分の車をたえず整備し、ピカピカに磨き上げていた。クラシックカーを愛する人は、「ものを大切にする人だ」と思った。

英語も同じで、一度勉強してから身に付けた英語を一生かけて、クラシックカー愛好者が何日かに 1 回ワックスをかけピカピカに磨き上げたり、決められた距離を正確に走れるように車を整備するのと同じように、ていねいにていねいに絶えず手をかけることが大切かと思う。

中間試験や期末試験でよい点が取りたかったら、十分学習したところをひたすら大きな声で読み、読めるようになったところからどんどん覚えていく。これが終ったら、試験範囲について何も見ないで書いてみる(つまり「暗写」する)ことをおすすめする。「暗写」が正確にできれば、5 段階評価で 3 の人は 4 に、4 の人は 5 に必ずなれる。「暗写」ができたら、開倫塾でお渡ししている各種の予想問題集をどんどんやること。大事なことがよくわかり、よく読めるようになり、すべて書けるまでになっているのだから、ほとんど条件反射的に解答することが可能。問題集をやっても全部スラスラできるので、勉強が楽しくなる。

これから大人になって海外旅行に行く時には、行く 2 ～ 3 週間前になったら、中学校・高校時代に勉強した英語のテキストを取り出して、1 日何時間かひたすら大きな声で読むとよい。外国旅行中も、時間があったら飛行機の中やホテルで、学校時代のものを読んでみること。驚くほど英語が口をついて出てくるハズ。保護者の方でもう一度勉強し直したい方は、まずその手はじめに、中学 1 年生と 2 年生の英語のテキストを大きな声でひたすら読んでみて下さい。中学 1 年生、2 年生のテキストなら、意味もある程度わかるし(わからなかったらお子様や塾の先生に聞いて下さい)、持ち運びにも便利。

３．おわりに

まだまだいろいろな方法があるとは思うが、今回は「ただひたすら英語の教科書を大きな声で読むこと」が、一生使える英語を身に付ける第一歩であることを述べさせていただいた。一点突破全面展開という言葉があるが、一つの簡単なやり方でも、5 年 10 年と継続してやっていると大きな成果が上がる。

学校時代の英語の教科書は一生使えるものなので、その学年が終ったからといって捨て去ることなく、一定の場所にキチンと保存しておくことも大事である。

御参考⑤
私は、毎年1回スイスのダボスで開かれる世界経済会議(World Economic Forum)のインド版India Economic Summitに参加するため、11月中旬にインドに行ってきました。次の文章は、その会議で議論された内容や会議の様子を紹介させていただいたものです。

「月刊私塾界」2009年1月号
「林明夫の歩きながら考える」

大不況下の国家戦略とは(1)

―インドで考える―

開倫塾
塾長　林　明夫

Q：インドには何をするために行ったのですか。

A：(林明夫：以下省略)年に1回、スイスのダボスで開かれる世界経済会議(World Economic Forum ワールド・エコノミック・フォーラム)のインド版(India Economic Summit インド経済サミット)に参加するためです。毎年1回開催で、私は3回目。本年の会議は、11月16日から3日間、首都ニューデリーのタージ・パレス・ホテルで開かれました。日本人4～5名を含む約700名の参加でした。3日間という短い期間でしたが、インドの政財界および NPO の重要人物とインド経済に関心を持つ外国人が、朝8時から夜10時すぎまで、実に熱心に大不況下の世界やアジア、インドの取り組むべき国家戦略を議論しました。

発表や議論はすべて英語で行われ、通訳は一切ありませんでした。

Q：議論は、どのような形でされるのですか。

A：1回のセッション(話し合い)は、大体が 75 分間です。司会者と議論のリーダー、パネリストはセッションごとにすべて異なります。同じ時間帯に、併行していくつかのセッションが開かれることもあります。

1つのセッションには、司会者のほかに3～6名がパネリストとして登壇(とうだん)。前半の45分は各人が3～5分ずつ何回か発言し、議論が煮詰まってくると、後半30分は会場の参加者との議論に移ります。数多く参加した大臣の発言も 1 回 3 ～ 5 分に限られ、壇上や会場の参加者とのやりとりが中心の、実に中身の濃い会議です。

各セッションの中には、15分から30分の休み時間があり、参加者同士が自由に交流を深めています。2 日目の夜は、近くの国立鉄道博物館で夕食会がありました。このような交流を通して、私も友人が何人かできました。

200 人以上の TV や新聞、雑誌などマスコミの方々も自由に取材。会議中の発言や質問も自由。休み時間には会場のいたるところでインタビューする姿が見られます。

各セッションのレポート、つまり記録は、2 時間後には会場で配付され、同時にインターネットでも配信されています。(www.weforum.org)

Q：本音の議論がなされるのですね。

A：インドでも世界同時不況の影響はかなりあるようで、財務大臣は、会議に参加しているインドの大企業の経営者に対して、あらゆる企業は価格を少しでも下げるよう「本音」で要請。その日の TV や翌日の新聞で、大きく報道されていました。

Q：教育に関する議論はあったのですか。

A：あったどころか、すべてのセッションの結論は、国家戦略として大事なのはインドという国を支える人材の戦略的育成であるというものでした。

特に、働く人すべてがスキルを身に付けて、生活できるだけの収入を得ることが、収入が 1 日 1 ～ 2 ドルの絶対的貧困からの脱却の鍵であるという議論が数多くなされました。

「頭脳流出」を防ぐための大学など高等教育の充実も叫ばれていました。大学の数があまりにも少ないので、人口 10 億人以上のインドを支えきれない。1 年に 700 万人以上の優秀な大学卒業生を出すために、IIT(インド工科大学)のようなレベルの高い大学をどんどんつくり続けねばならないとの発言も、政府担当者からありました。

小・中学校などでの基礎教育の充実と、工業高校、商業高校、農業高校や専門学校での技術教育と、これに加えて、IT と正確な英語を話せる国民を教育することが、インド経済発展と国民の生活向上の基礎であるという議論も多くの参加者からありました。

Q：林さんは、インドとどのように交流したいのですか。

A：私の第 1 の夢は、インドの優秀な先生を、英語、数学、科学の先生として、日本の学校や開倫塾などの民間教育機関にお招きすることです。

世界の標準的なテキストを用いて、日本の小学校や中学校、高校などで学ぶ基本的な教科を、入学試験なしに誰もが英語で学ぶことのできる「コミュニティ・カレッジ」をつくることが、私の長年の大きな第 2 の夢です。その時には是非、インドから先生をお招きしたく思います。

インドの予備校や小・中・高校、大学、大学院で学ぶ学生やそこで教える先生方、学校などの経営者とも交流したい。これが第 3 の夢です。次回は、インドの予備校を是非訪問したく思います。

大学も含め日本の学校は、もっとインドとの交流を深め、インドの学校を日本に誘致したり、インドに学校を設立したりすることも含め、インドの学生や先生方とも交流を深めるべきだと考えます。日本の学校、特に大学が国際競争力を強化するには、完璧な英語を使いこなす優秀な学生や先生が大量に存在するインドに着目すべきと考えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：大学の国際競争力をテーマにした OECD の国際会議のために、6 月に訪問したアイスランドは、2008 年の秋に国家破産するに至りました。32 万人の人口の極寒の国が、国家の運命を懸けて取り組んだ金融立国の試みは、世界を揺るがせた経済危機によってあっという間に打ち砕かれました。人間の運命と同じように、国家の運命もはかない。国家戦略の大切さを痛感しています。一日も早く立ち直れるよう、日本は IMF 等を通じ EU 諸国と協調して財政支援を行うよう願うものです。

今月も、本を一冊ご紹介致します。ビル・エモット著「アジア三国志、中国・インド・日本の大戦略」(日本経済新聞社 2008 年 6 月 5 日刊)です。イギリスの経済誌「エコノミスト」の東京支局長を経て編集長を務めたエモット氏のこの著作の原題は、「RIVALS(ライバルズ)」。中長期的視野から日本の立ち位置を考える意味で、年末から新年の読み物として最適と考えます。是非御一読を。新年もどうかよろしく。

― 2008 年 11 月 21 日インドからの帰途にて記す―

御参考⑥
　私が社外取締役を務めるマニー株式会社が、2008 年度のポーター賞を受賞しました。次の文章は、その表彰式で、戦略の世界的権威でありハーバード大学ビジネス・スクールの教授でもあるポーター先生が強調されたことや、マニー株式会社が戦略として明確にしているトレード・オフについて紹介させていただいたものです。御参考までにご覧下さい。

月刊「私塾界」2009 年 2 月号
「林明夫の歩きながら考える」

大不況期の戦略とは

―ポーター賞で考える―

開倫塾
塾長　林　明夫

Q：本当に世界中が大不況期に入ってしまったようですね。大不況期をどのように乗り切ったらよいと考えますか。
A：(林明夫：以下省略)「戦略」を明確に立て、徹底する以外にないと考えます。

Q：「戦略」はどのように学べばよいのですか。
A：戦略の世界的権威である、ハーバード大学ビジネス・スクールのマイケル・ポーター先生から学ぶのが一番と私は確信します。ポーター先生の本(戦略論の教科書)を読みながら、一橋大学大学院国際企業戦略研究所が主催して戦略の優れた企業を毎年表彰する「ポーター賞」の受賞企業を事例研究(ケース・スタディ)すると、理論と現実がよく「理解」できます。(www.porterprise.org をご覧下さい。)

Q：戦略とは何ですか。
A：ポーター賞の審査基準によれば、戦略の本質は他と違うことをすることです。イノベーションを起こすことによって独自性のある価値を提供し、その業界におけるユニークな方法で競争することを意図的に選択した企業や事業が、ポーター賞では評価されます。
　2008 年度のポーター賞の表彰式が 12 月 3 日に東京のホテル・オークラで開催された際、ポーター教授が強調されたのは、ユニークネス(独自性)でした。不況期こそユニークネスが重要と何回もおっしゃっておられました。

Q：具体的には、どのようにユニークネスを貫いたらよいのですか。
A：次の 8 つの項目が大切とされています。
(１)各業界において他社とは異なる独自性のある価値を提供していること。

(２)戦略に一貫性があること。
(３)戦略を支えるイノベーションが存在すること。
(４)資本を効率的に運用すること。
(５)独自のバリューチェーンがあること。
(６)トレード・オフを行っていること。
(７)活動間のフィットがあること。
(８)各業界において優れた収益力を維持すること。

Q：何ですか、6番目の「トレード・オフ」とは。
A：やらないことを戦略的に明確にすることです。
　例えば、私が 4 年前から社外取締役を務め、2008 年度にポーター賞を受賞したマニー株式会社(ジャスダック、J ストックに株式公開。手術用縫合針製造。本社 栃木県宇都宮市。ベトナム、ミャンマーに現地法人。2009 年にはラオスにも。)は、何と次の 17 ものトレード・オフ、つまり、やらないことを戦略として明確にしています。トレード・オフの結果もあってか、売上は現在 100 億円未満ですが、約 40 %もの高い経常利益率を示しています。戦略としてのトレード・オフ、つまり、やらないことを理解するために、まずはゆっくりとお読み下さい。
(１)医療機器以外はやらない。
(２)独創技術のない製品はやらない。
(３)製品寿命が短い製品はやらない(20 年を目安とする)。
(４)ニッチ市場(世界市場の規模が 2000 億円以下)以外のものはやらない。
(５)世界中に販売できない品目はやらない。
(６)発売 4 期目で 1000 万円以上の年間売上が見込めない製品、売上総利益率 35 %以上、または営業利益率 10 %を見込めない製品の設計・開発はやらない。
(７)発売 10 年以内に営業利益率 30 %が見込めない製品は、大きなメリットがない限り設計・開発はやらない。
(８)将来(15 年から 20 年程度)、世界一、二位の市場シェアと品質(医師の使命感と安全性)になれる見込みがない製品の設計・開発はやらない。
(９)同社の所有する技術の占める割合が 50 %未満の製品の設計・開発はやらない。
(10)同社製品または同社の所有する技術に関連しない装置やサイズの大きい製品の設計・開発はやらない。ただし、既存製品との相乗効果が期待でき、かつ同社の所有する技術の占める割合が 50 %以上の製品は、設計・開発を行う。
(11)新たな手術方式を提案する機器の開発は行わない。
(12)発展途上国向けに、低価格化するための低品質の製品は販売しない。
(13)生産拠点の海外進出先を、人件費の安さで選ばない。微細なものにこだわる国民性、根気強い性格を重視する。
(14)生産拠点の海外進出先として、工業団地を選ばない。
(15)国内拠点の従業員数は 300 人を超えない。
(16)日本以外では、自社によるマーケティング(販売)は行わない。
(17)本業に必要でない財テクは行わない。

Q：林さんはマニー株式会社の社外取締役として、11月末にもミャンマーとベトナムに行ったそうですね。

A：現地法人を知った上でないと社外取締役の役職は務められないと考え、就任の年以来 2 年おきに監査に行っております。(ベトナムは 3 回目、ミャンマーは 2 回目。)

ヤンゴンの現地マネジャーのエイプリルさんからは、ミャンマー人の誇りにかけて、世界一の品質の製品をつくり続けると伝えられ、胸が熱くなりました。

Q：学習塾・予備校・私立学校の経営者の皆様にお伝えしたいことはありますか。

A：児童・生徒・学生のために何が貢献できるかを考えた上での生き残りを図るには、教育目標に沿ったユニークネス(独自性)をトレード・オフ、つまり、やらないことをはっきりさせることが大切と考えます。

トレード・オフ、やらないことを戦略として明確にし世界一の品質を目指すことで、超円高の中、世界市場と競争し続ける日本の製造業に学ぶところは多いと考えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：今月も、読めば必ずためになる本をご紹介させて頂きます。

ジョセフ・S・ナイ著「リーダー・パワー」日本経済新聞社 2008 年 12 月 12 日刊。原著名は「The Powers To Lead」。組織をリードするための力を「スマート・パワー」という考えで説明。2004 年刊行の「ソフト・パワー」と併読なさることをお勧めいたします。

大不況期を乗り切るためには、リーダーは磁石のように人を引きつける力を身に付け、組織はユニークネス(独自性)を追求する以外にないかもしれませんね。

― 2008 年 12 月 17 日記―

御参考⑦
　次の文章は、東京都港区教育委員会 区立幼稚園長・小中学校長対象の平成 20 年度教育経営協議会 研修会で、私が行った講演の資料です。御参考までにご覧下さい。

東京都港区教育委員会
区立幼稚園長･小中学校長対象
平成 20 年度教育経営協議会
研修会　資料

2008 年 12 月9日(火)
10:00a.m.～正午
東京都港区立教育センター

「社会が求める学校教育の在り方」について

林　明夫
(社団法人　経済同友会、幹事)
2008 年 12 月 5 日

１．はじめに

(１)自己紹介

(２)本日の研修会の目的
① 経営とは
② 人材育成
③ 関係者との連携
④ 社会・企業が期待する学校教育
以上のテーマについて、経営品質の向上の観点から考える。

２．経営とは

(１)経営とは、営みを経て目的を達すること。

(２)経営理念(経営にあたり価値あるものとして尊重すべきこと)
① 顧客本位
② 独自能力
③ 社員重視
④ 社会との調和

(３)「目的」達成のため「目標」を設定し、目標達成のためにＰ→Ｄ→Ｃ→Ａを回し続けることが「経営」と考える。
① 「目的」と「目標」(マイル・ストーン)

スタート → 目標 → 目標 → ・・・ → 目的 (ゴール)

(ア)「目的」とは「社会的使命」(mission ミッション)

(イ)「目標」とは、「目的」達成のために１つ１つクリアーしなければならない「マイル・ストーン」(一里塚)

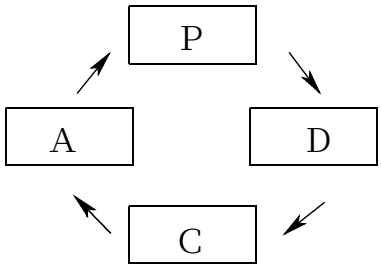
② Ｐ→Ｄ→Ｃ→Ａサイクルを回すとは

(ア) Ｐ(Plan プラン　計画)

(イ) Ｄ(Do ドゥー　実行)

(ウ) Ｃ(Check チェック　検証)

(エ) Ａ(Action アクション　修正)



③ Ｐ(Plan)は、「目標」を達成するために立てる「仮説」。

(ア)まず「仮説」を置き、ある前提条件や条件設定のときの最善策を立てる「計画」を構築するのが「知的能力」。

(イ)この計画を実行し、検証しながら状況に応じてどんどん修正し続け、スピーディ(迅速)に目標を達成するのが「組織能力」。

(ウ)「知的能力」×「組織能力」＝「目標達成能力」

(４)組織として「目標達成能力」を身に付けるために

①「競合比較」

②「ベストプラクティスのベンチマーキング」

(ア)社内(組織内)のベストプラクティスのベンチマーキング

(イ)同業他社のベストプラクティスのベンチマーキング

(ウ)異業種のベストプラクティスのベンチマーキング

③ 仮説を立てる前提としての基礎知識を最先端で得るために、「競合比較」と「ベストプラクティスのベンチマーキング」を役職者ほど毎週のように行い続けること。

④ この後、「実験」をし、「修正」を繰り返しながら「全面展開」するのがビジネスの基本。

⑤ 単なる「思いつき」でものごとを行えば、「人類初めての実験」と同じで、ほとんど失敗。

⑥「暗黙知の共有化」をするためのしくみづくりを、ＰＤＣＡを回しながら得られた成功事例と失敗事例から組織として学び続けること。

(５)戦略的意思決定

① 議論は自由に。耳に痛いことを言う人は尊い。

② しかし、意思決定は責任者が一人で行う。

「問題点を先送りにしないこと」が最重要

※但し、責任者は、意思決定に至った理由は丁寧に説明を。

(説明責任(accountability アカウンタビリティ)を示すこと)

３．人材育成

(１)教育機関としての質とは

① カリキュラムの質

② 教師の質

③ マネジメントの質

(２)教育の成果を決定する要因とは

① 本人の自覚

② 教師の力量

※本人の自覚を促すのも教師の力量

(３)人材育成の手順

① 採用

② 研修

(ア)採用前

(イ)採用時

(ウ)3 ～ 10 年

(エ)免許更新時

(オ)退職まで

③ 開倫塾の場合－ empowerment(エンパワーメント)による生産性向上、雇用の維持

(ア)能力強化

(イ)権限委譲

(ウ)employability(エンプロイアビリティ 雇われる能力)

・経営幹部としての employability

・マネジャーとしての employability

・一般社員としての employability

(エ)能力を強化し、不足する能力を補うのが研修

４．関係者との連携

(１)幼小連携

(２)小中連携

(３)中高連携

(４)高大連携

(５)大学との連携

(６)企業・NPO との連携

(７)地域社会との連携

５．社会・企業が期待する学校教育

（１）Key Competencies（キー・コンピテンシー）を身に付けること

① キー・コンピテンシーのねらい

（ア）人生の成功

（イ）正常に機能する社会

② 内容

（ア）道具を相互作用的に用いる能力（知識基盤社会に対応）

（イ）多様な集団で交流する能力（グローバル化する社会に対応）

（ウ）自立的に行動する能力（大不況、超高齢化に対応）

③ 前提

（ア）Learning To Learn（ラーニング・トゥ・ラーン）学び方を学ぶ能力

（イ）読書による熟慮・熟考・省察（reflection 振り返り）の能力の育成

NIE（新聞を教育に）による Critical　Thinking（クリティカル・シンキング 批判的思考）能力の育成

６．おわりに

（１）いつまでも若々しく生きる（中村天風先生）

（２）教育ある人とは学び続ける人（ドラッカー先生）

（３）一生勉強、一生青春（相田みつを先生）

（４）離見の見（世阿弥）

（５）健康第一（身体の健康、心の健康）

－自然と精神（ベイトソン）－

以　上

御清聴を感謝します。

2008 年 12 月 6 日記